

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

令和元年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和2年3月13日(金)発行 第 46 号 発行責任者:高橋 弘悦

第2回 卒業証書授与式挙行 輝ける君の未来を



13日、コロナウイルス禍の厳戒態勢の中、令和元年度卒業証書授与式を挙行了いたしました。

在校生の参列もなく、ご来賓も教育長様のみという異例の対応を余儀なくされましたが、卒業生は、中学生としての最後のつとめを立派に果たしてくれました。



私たち教員は3月が好きです。春の訪れもありますが、生徒達の3年間の成長を実感できるときだから、そして何より、3年生が中学校生活を終えいよいよ次のステージへ踏み出して行く姿を見られるからです。

卒業生の皆さん、がんばってくれてありがとう。これから新しい道を歩き出す卒業生を、いつでもずっと信じて応援します。

卒業式式辞

令和2年3月13日

三カ年の蛭雪の功を積み、今ここに卒業証書を授与された二十八名の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝いいたします。

九年前の東日本大震災にも匹敵する新型コロナウイルスのため、特別な対応をせざるを得ない卒業式となってしまいましたが、担任の心のこもった呼名、そしてこのはりつめた空間に響き渡った皆さんの返事は、じつにすがすがしく、そして凛々しいものでありました。



卒業生の皆さん、ただいま一人一人に渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証であります。同時に、九年間の義務教育の修了を意味します。家族の方々の温かい励ましや地域の多くの皆様のご支援、先生方の指導によって健やかに成長し、今日という日を迎えることができました。

皆さんは、異なる二つの中学校に入学した経験を持つ、最後の卒業生になります。開校直後の昨年にも増して、皆さんは様々な場面で素晴らしい活躍をし、会津柳津学園中学校の名を高めてくれました。私は皆さんのことをずっと頼もしく、また誇らしく思っていました。

オリンピックの金メダルをとることはとても難しいことです。でも、それ以上に難しいのは連覇することだ、といわれます。二年目を迎えた会津柳津学園中学校ですが、その歩みを確実なものとし、さらに大きく発展させたのは皆さんに他なりません。難しい二年目を輝きに満ちたものとしてくれた皆さんに、心から敬意を表します。

卒業の節目にあたり、皆さんへの期待をお話します。これからの人生において失敗しないことなどあり得ません。私はむしろ皆さんにはたくさんの失敗をしてほしい。いろいろなことに失敗をして痛い思いをして、悩んでほしいと思っています。それがあなた方の成長、輝かしい未来につながるからです。

有名なトーマス・エジソンは、白熱電球のフィラメントを作る際に、六千回の失敗を繰り返したと伝えられています。生涯で最も手間と費用をかけた自動車用のアルカリ蓄電池では、五万回を超える実験を繰り返したといわれています。

そのエジソンはこういいます。

「私は失敗していない。ただ、一万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。」

失敗しない一番確実な方法は何でしょうか？

それは挑戦しないことです。けれどもそこからは何も生まれません。失敗を恐れずに挑戦すること。その失敗と向き合い、あきらめずに挑戦を続けることが成功につながる、その過程において「生きる力」がつくのです。

私自身、数限りない失敗をしています。思い出すだけで穴があいたら入りたいと、赤面してしまうような失敗もたくさんしました。その度に、悩み、煩悶し、乗り越えて力をつけてきたと思っています。上手に向き合えずにふてくされたり、開き直ったりしたこともあります。そういった経験も含めて今の自分があると思っています。

失敗は若者の特権であり、失敗した分良い経験を積んでいると思うことが大事です。

ぜひ、色々なことに挑戦し、失敗し、それを乗り越え、しなやかに、そしてしたたかに人生を歩んでください。

卒業生の皆さん、卒業は、終わりではなく新たな出発です。皆さんのこれからの努力が、未来を創造し、地域に元気を与えることにつながることを切に願っています。そして、後に続く後輩の指針となるよう、力強く歩んでください。会津柳津学園中学校は、これからも歴史を重ねていきます。皆さんが、力を合わせて土台を創った会津柳津学園中学校をこれからも温かく見守って欲しいと思います。

希望に満ちた出発の日にあたり、羽ばたいて行く皆さんの未来に幸多かれと折り、「式辞」といたします。

別れの言葉

卒業生代表 小池 輝

厳しい会津の冬の寒さも和らぎ、差し込む日差しは暖かさにも春の足音が感じられる今日の佳き日、私たち、会津柳津学園中学校卒業生、二十八名は、九年間の義務教育の課程を修了し、卒業証書を手にすることができました。ただ今は、校長先生、教育長様の温かな励ましの言葉をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

三年前、私たちは真新しい制服を着て、緊張しながらも入学しました。不安がありながらも、中学校に通っていたあの頃を思い出します。小学校の時とは違い、教科ごとに先生がかわる新鮮さを感じながらドキドキしていた私たちに、優しく声をかけてくれたのは先生や先輩方でした。

二年生になり、柳津中学校と西山中学校が統合し、会津柳津学園中学校となりました。西山中の四人とは、最初の交流学習では、あまり会話ができませんでした。毎日の何気ない生活や、行事を通して仲良くなり、今では悩みも聞いてくれるかけがえのない友達になりました。職場体験では、働くことの大変さと大切さを実感することができ、いつも僕たちを支えてくれている家族のありがたさを実感することができました。自分たちが主力となって臨んだ初めての新人戦。支部大会では、数多くの部で優勝を果たし、会津柳津学園中学校の名を会津中にとどろかせることができたことと自負しています。

そして、私たちは三年生になりました。三年間の練習の成果を出し切った中体連総合大会。トラブルもありましたが、自分たちでルートを決め、仲間と協力しながら行動し、楽しい思い出となった修学旅行。そして、柳津祭で披露した学年合唱の「証」は、三年生全員の心が一つになりました。その感動は今でもよみがえってきます。ボランティア活動では、老人ホームのぞみを訪問し、合唱を披露しました。高齢者の方々に元気づける活動でしたが、「受験頑張れ」とプレゼントをいただき、逆に私たちが励まされました。自分たちの歌で感動してくれた高齢者の方々の涙が今でも記憶に残っています。その後、私たちの前には、高校入試という大きな壁が立ちました。五教科の勉強、面接や作文の練習、次から次へと準備をしなければいけないことに加え、自分の行きたい高校に行けるのかどうか、不安と闘いながらの毎日でした。そんな中でも最後まで頑張りきることができたのは、一緒に気持ちを分かち合い、お互いを励ましあった友達が存在があったからです。

在校生の皆さん、一緒に過ごした年月は、とても短く感じます。様々な行事を通して、一、二年生の素晴らしい力を強く感じることができました。私たちは先輩として、精一杯皆さんをリードしてきたつもりです。言葉では伝えられなくても、態度や行動で、先輩としてあるべき姿を伝えることができたと思っています。これからは皆さんが会津柳津学園中学校の中心です。よりよい学校を目指して、精一杯頑張ってください。

先生方、今までお世話になった先生方の励ましは、私たちの大きな力となりました。私たち一人一人の悩みをいつでも真剣に聞いてくれた先生方は、私たちを元気にしてくれました。先生方のおかげでここまで成長することができました。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん、いつでも私たちの味方で、見守ってくれて、応援してくれてありがとう。時には厳しく、ぶつかることもありましたが、私たちを思っている事と、今は思います。これからもまだまだ迷惑をかけてしまうかもしれませんが、必ず親孝行するので、もう少しだけ応援してください。

九年間一緒だった仲間と別れることはとても悲しいです。これから私たち二十八名は別々の道を歩んでいきます。しかし、卒業は「別れの日」であるとともに、新たなステージへの「旅立ちの日」だとも思います。私たち二十八名は、九年間の思い出を胸に前を向き希望をもって進んでいきたいと思っています。今までお世話になった先生方、保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

最後に、ご来賓の皆様をはじめ、私たちに関わってくださったすべての方々に、心からの御礼を申し上げ、別れの言葉といたします。